

えひめの子どもたちへのメッセージ

～みんなが安心して過ごせる学級・学校をつくるために、確かな行動に表そう～



愛媛県教育委員会教育長 田所 竜二

県内すべての小中学校をオンラインでつなぐ「えひめいじめSTOP!」デー。以前は、小中学校の代表者による「子ども会議」等を開催していましたが、コロナ禍で一か所に集まるのが困難になったため、オンライン形式での開催に変更したところ、全国でも類を見ない愛媛県ならではの取組として、小学6年生と中学1年生を中心に約23,000人が参加し、みんなが安心して過ごせる学級・学校をつくるために、確かな行動に表そう～

3年目となる今年度は、「みんなが安心して過ごせる学級・学校をつくるために」をテーマに、事前に配信したミニ動画や演劇による問題提起、リアルタイムでのアンケートなどを通して、熱心な議論が行われました。その中で意見として出された、「自分自身を見つめること」や「友達の個性や考えの違いを認めること」は、ライブ授業でもお話をあった「人とよりよく関わる方法」に通じるものであり、児童生徒の皆さんがいじめ問題に真剣に向き合っている大変心強く感じています。

「えひめいじめSTOP!」デーは、いじめ問題の解決に向けた一つのステップです。次のステップは、皆さんが、今後、確かな行動につなげていくことです。話合いで気付いたことを、日常の行動に表すことで、変化が生まれます。はじめの変化は小さくても、積み重ねていけば、必ずや大きな変革をもたらすことができます。いじめの起こりにくい学級・学校づくりに向け、皆さん一人ひとりが考え、実践してほしいと願っています。

保護者や地域の皆様、子どもたちが学校で安心して学べる環境をつくるためには、いじめ問題について当事者意識をもつ考え、地域社会全体で人を尊重する精神の涵養や、いじめを見逃さない雰囲気醸成することが大切であると考えます。子どもたちの考えや意見を尊重しながら、豊かな感性を育み、見守り、支えていただきたいをお願いします。

最後に、「えひめいじめSTOP!」デーの開催に当たり、ご理解とご協力をいただいた皆様に、心から感謝申し上げます。

愛媛県教育委員会
人権教育課
2024年(令和6年)
2月発行

えひめ愛顔の子ども新聞



小中学生 約23,000人が参加

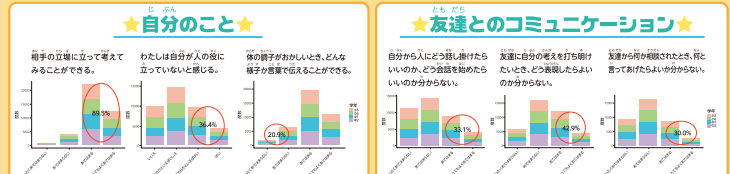
みんなが安心して過ごせる学級・学校をつくるために

県内一斉ライブ授業 えひめいじめSTOP!デー開催

令和5年11月16日(木)、宇和島市立南予文化会館をメイン会場に、県内すべての市町をオンラインでつなぐ一斉ライブ授業「えひめいじめSTOP!」デーが開催されました。小学校6年生と中学校1年生を中心に約23,000人が参加し、みんなが安心して過ごせる学級・学校をつくるためにはどうすればよいかについて話し合い、考えを深めました。ライブ授業の前半では、昨年と同じように劇を鑑賞し、自分が劇の登場人物の立場だったら、どのような行動を取るのかについて各学級で話し合いました。リモートでつながった6校から、「そっとしておいてほしい気持ちと声を掛けたい気持ちがある」など、多様な意見が出されました。後半は、「みんなが安心して過ごせる学級・学校をつくるために必要なこと」についてライブアンケートを実施。約18,000人からの回答は、「普段から様々な人と関わること」「意見を最初から否定せず、まずは受け止めることが大切」といった意見など、何でも言い合える環境や人との信頼関係をつくることの大切さについての意見が熱く交わられました。

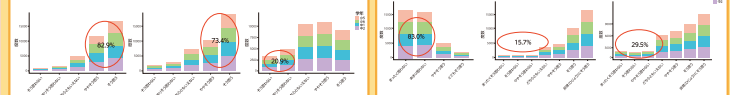
小5～中2のみんなに聞いてみた!

自分のこと・友達のこと・人とつながること



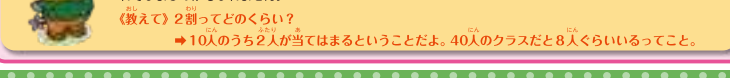
コロナ禍で遊びや学習に様々な制限があり、人と関わりが極端に少なくなりました。寂しい思いを経験した人も多かったことでしょう。そこで、今、小中学生のみんなは、周りの人との関わりについてどう感じているのか、それが心や体の健康とどうつながっているのかについて調べてみました(令和5年6～7月、県内の公立小中学生約44,000人を対象にアンケートを実施しました)。

家族や地域との関わり



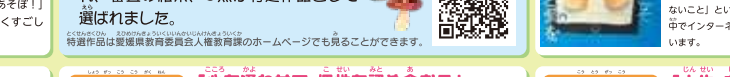
地域の一員として生きている人が多く地域への関心も高い。また、家族や友達のリポートも比較的多い。ただ、家族のリポートが十分に受けられなかったり、家族との話し合いがうまくできないと感じている人もいて、様々な人との関わりが大切。

学級の様子



友誼同士の助け合いがよくでき、このクラスで良かったと思う人が多い。友誼同士の助け合いが見られた。ただ、自分の気持ちを表現しにくいと感じる人もいて、様々な人との関わりが大切。

自分自身を見つめること



自分自身を見つめることが大切。自分の考えや気持ちを表現し、人とよりよく関わる方法を見つけることが大切。

ライブ授業前

今年もセンター校とリモート校では、「事前ワークショップ」を行ったよ。ゲームを通して、友誼のことを知り、演劇ワークショップで相手の立場に立って考えたりしたよ。

センター校

- 宇和島市立鶴島小学校
宇和島市立岩城中学校

リモート校

- 新居浜市立中萩小学校
上島町立岩城中学校
伊予市立北山崎小学校
松山市立余土中学校

サテライト校 408校

今年もライブ授業の前にはミニ動画を見て、ご自身の生活を見直したり、クラスで話し合ったりしたよ。

- 安心して過ごせる楽しい学校ってなに?
お話ししよう
いいことをすると楽しい

愛媛県 YouTube 公式チャンネルで公開中。みんな見てね。

スペシャルゲスト あばれる君

小中学生の真剣な話し合いや、熱のこもった演劇を振り返りながら、「悩んでいるときには、友達に話すことで楽になることもある。気軽に話せる関係性をつくることが大切」と、笑顔を交えて話し合いを盛り上げた。また、1日頃の友人とのよりよい関係づくりについては、「自分に厳しくしすぎないといひ。そう考えることで自分は楽になった」と、自らの経験を交えて、子どもたちにエールを送りました。

ライブ授業後半

「みんなと違うな」と感じることに ついて話し合ったこと

みんな何事もなげなように見えて、いろいろな悩みを抱えているんだな

運いを認め合い、自分の考えや気持ちを伝えていこう! 小さなことから始めよう! 自分ができることはきっとある!!

ライブ授業中に わだしのホンネ

「みんなと違うな」と感じるどころ

- すく泣いてしまうところ
運動苦手なところ
人に話しかけるのが苦手なこと
大人数でいる方が少し寂しいより寂なこと
スマートフォンを持っていないこと
ワイワイしている空気に入っていけないこと
顔がコンプレックス
周りに気を配らざるにすぎること
持ち物の確認を何度もしてしまうところ
無理して受けていることが多いところ
みんなの涙はあまり感じない
言いたくない、答えたくない

先生方から

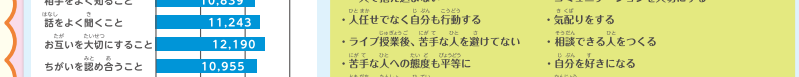
子どもたちが考えたことを伝える方法をしっかりもっているから、自分から言えるまで待たせて、人間関係について真剣に話し合っている姿勢がとても素晴らしい。

保護者のみなさんから

「いじめSTOP!」デー後のみんなの様子について、「いじめSTOP!」デーを開催したり、校内放送で紹介したりすることで、学級・学校全体の意識が向上している。

ライブ授業後アンケート

「いじめSTOP!」デー後のアンケートに、たくさんの回答・意見が届けられました。



自分が見えなくなると、自分と向き合うことが大切。自分自身を見つめることが大切。自分の考えや気持ちを表現し、人とよりよく関わる方法を見つけることが大切。

相談窓口

いじめ相談ダイヤル24 SNS相談はっとえひめ



小学校低学年

西園中央市立南川小学校 2年 河村 晃さん

小学校中学年

宇和島市立明倫小学校 4年 織田 真代さん

令和5年度 人権ポスター特選作品

令和5年度は、小学校・中学校・高等学校等から計45,135点の作品が寄せられ、審査の結果、5点が特選作品として選ばれました。

「心を通わせて 個性を認め合おう」

八幡浜市立立戸小学校 6年 吉川 陸さん

「見えないうからこそ 敬愛と愛を」

西条市立立南中学校 3年 越智 彩葉さん

「人生 自分で」

愛媛県立今治高等学校 1年 木原 涼帆さん

愛媛大学教育学部の学生の皆さんから

会場にいる人だけでなく、モニターの向こうにいる小中学生を見て一つのテーマについて考えている様子で印象的でした。「みんな安心して過ごすことのできる学級・学校」は、どの学校でも目指していきたいものだと思います。

来年度は中予から発信します

令和6年度は中学の中学生代表者をセンター校に一斉ライブ授業「えひめいじめSTOP!」デーplusとして、これまでの取組と人間関係構築力の見方を「プラス」して発信します。

すていね! みんなも自分ができることから行動してみよう!